

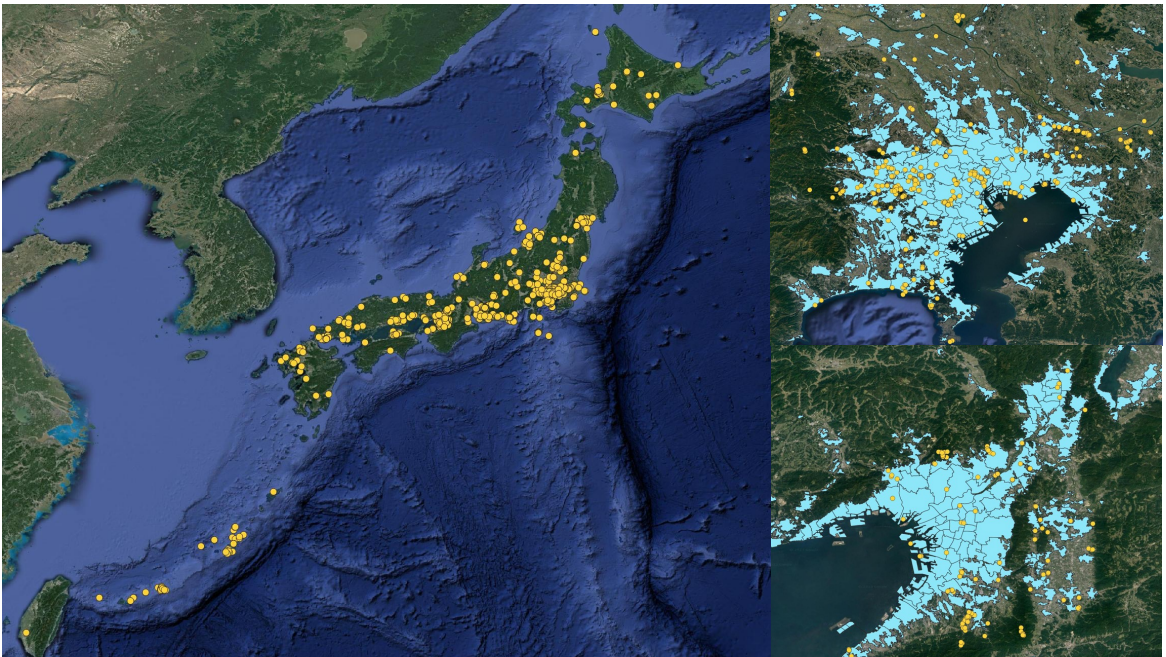
食性データベース

記録が少ない場所での記録を充実させる！



2022年1月に始動した食性データベースの登録件数が**2000**件を超えました。全国各地から**200**種の鳥の採餌情報が集まっています。

一方で、記録は人口が密集している場所に偏っています。人口密度の高い人口集中地区は、国土のわずか**3.5**%を占める場所ですが、食性データベースに寄せられた記録は全体の**32**%が人口集中地区内からの記録でした。人口集中地区から外れた場所でも、大都市に近いところからの記録が多くなっています。



(左) 食性データベースに記録された情報の地点

(右上) 関東周辺 水色は人口集中地域

(右下) 近畿圏 水色は人口集中地域 周辺部にも記録地点が多い

野鳥の食性を広く調べるためには、人口の分布による記録の偏りを少しでも均しておく方がいいと言えます。また、ある鳥の食性を明らかにするときに、分布の北から南まで、できるだけ広い範囲から記録を得ることが望ましいと考えられます。

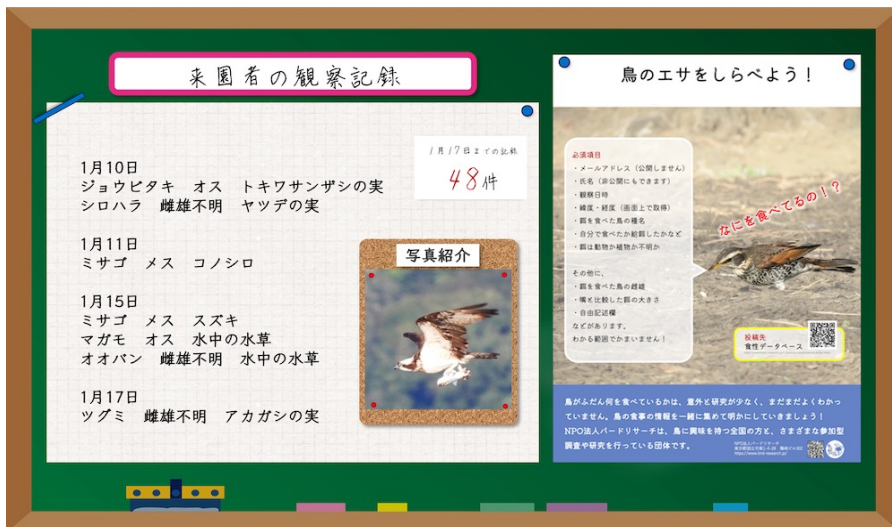
例えば、食性データベースではイソヒヨドリの越冬期の食性を調べるというテーマで、地域や雌雄による違いを調べてみようとしています。しかし今のところ、集まっている記録はほとんどが本州で、本州の中でも記録箇所は偏っています。

こうした鳥について、記録のある場所とは環境が異なる記録が少ない場所でも採餌を観察し、場所による採餌内容や行動の違いを比較します。



記録の集め方

- 1 いくつかの鳥種について、記録が集まっている場所とは環境が異なる、記録が少ない場所で採餌行動を観察し、場所による採餌内容や行動の違いを比較します。
- 2 全国各地の自然観察施設に食性データベースに関連する展示への協力を依頼し、来場者からその場所で観察した鳥の採餌行動を収集します。



展示のイメージ図

参加予定施設 水の駅「ビュー福島潟」、加賀市鴨池観察館、箕面ビジターセンター、
きしわだ自然資料館、新光産業きらら浜自然観察公園、油山自然観察センター

ご支援の用途

いただいたご支援は野外調査や展示物の印刷・発送の費用に充てさせていただきます。